

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種 別	児童養護施設
-----	--------

①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター

②施設名等

名 称	オリーブ
施設長氏名	廣瀬 貴雄
定 員	50名
所在地 (都道府県)	愛知県
所在地 (市町村以下)	碧南市江口町三丁目12番地
T E L	0566-46-2888
U R L	

③実施調査日

開 始 日	2014/4/21
評価結果確定日	2014/10/2

④総評

◇ブレの無い管理者の指導力

「子どもの最善の利益」を追求するためにも、職員に対して関係機関（児童相談センター、市の担当課、教育関係等）との連携の大切さを機会あるごとに指導している。その実践として、幼稚園や小学校では、職員がPTA活動に積極的に参加して役員を務めている。ユニット化を睨んで職員が増員されたが、職員はすべて正規職員であり、ブレの無い管理者の下に結束力は強い。

◇子どもの意見の尊重

毎月、小学生以上の子どもが参加する「こども会議」が開かれている。会の運営は子どもたちの自主性に任されており、「ユニット目標」の進捗報告や評価も実施している。規程やマニュアル等の手順が改訂される場合には、関連する内容を「こども会議」に諮って意見を収集している。

◇即効性のある防災訓練

施設が臨海地帯に立地するため、職員の防災意識は強い。夜間「想定」ではなく、実際に夜間に避難訓練を実施したり、深夜の職員呼び出し訓練を実施する等、即効性のある訓練を実施している。

◆重点目標の追跡

事業計画の中で、子ども、職員、組織等の単元に分けて「重点目標」を定めている。日々の支援の中では重点目標を意識した取り組みが行われているが、1年間の総集編である「事業報告書」には、それに関する記述がなかった。数値目標を定め、到達の度合いや達成の判定を可能とする等、追跡や検証の仕組み作りに期待したい。取り組みの成果や職員の「汗」を事業報告書の中に見たい。

◆誤薬事故の撲滅

事故報告やヒヤリハット報告には、誤薬に関するものが多く含まれていた。その多くは「飲ませ忘れ」等の重篤なものではなかったが、一つ間違えれば誤薬は人命にも係わる重大な事故にもつながる。「ヒヤリハット・安全対策」担当等を中心に、抜本的な撲滅運動の展開を期待したい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

理事長に報告後、職員全員供覧し結果の周知を図っております。
結果については、リーダー会議で再確認し、改善できる事項から順次取り組んでいきます。